

第21回 O M E P 世界大会を

目前にして

津守 真

OMEP世界大会が八月一日から四日に、パシフィコ横浜で開かれる。私はその責任を負っており、世界大会を目前にして、多くの方々と共に、心身ともに緊張して過ごしている。いま、日本も世界も大変な時であるが、世界が動乱のただ中であっても、幼児の保育をする人々は互いに交わりつづけ、学びつづけることが自分自身の向上に必要なことであると思う。それこそがこれからの世界の平和の基礎である。

OMEPPとは何か

OMEPPは、幼児の幸せのために協力する国際機関である。第二次世界大戦直後、一九四八年に未だ戦火の消えないヨーロッパで創設され、現在では六〇か国以上の国が加盟している。ユネスコ、ユニセフ、EUと連携して活動している（ユネスコは、幼児を〇歳から八歳までと定義している）。

次の文章は、ノールウエーのバルケ女史が世界総裁だったとき、ある年の世界理事会の机の上においてあったものである。OMEPPが幼児と保育についてどのように考えているかをよく示していると思うので、引用したい。

OMEPPはこう考える

〈子ども〉

OMEPPは、ひとりひとりの子どもを、その文化と社会に創造的に貢献しうる独立した人間として尊敬する。

〈人生の段階〉

OMEPPは、幼児期を、人間の生涯の中で、配慮と、愛と、支えを必要とする傷つきやすい危機的な時期と定義する。

〈生活の文脈〉

OMEPPは、子どもを取り巻く重要な人々―家族、保育者、近隣の人々―を含めて

幼児に対する方策を考える。

〈質〉

OME Pは、良質の幼児保育は保育者の質にかかっており、彼らは特別の支援を必要とすると信じている。それ故に、OME Pは保育者の一層の成長を可能にする機会を提供する。

〈平和〉

OME Pは、万人のための教育を、世界平和のための教育と理解する。それ故に、子どもたちは社会的有能性と異文化理解を発達させることを必要とする。

〈代弁者〉

OME Pは、そのメンバーと代表者たちとの活動を通して、政治と国と国際レベルで、幼児及び彼らのニードの代弁者となって働く。

〈連帯〉

OME Pは、国と民族と政治の境界及びいかなる集団的利害をも超えて、世界的危機の際の犠牲者である幼児の利益を擁護するためにパートナーシップを樹立する国際機関である。

OME Pは創設以来約五〇年を経た。その間、政治も社会も思想も変化し、幼児保

育・教育の考え方も幾度か変遷した。その期間を通じて、OME Pは常に子どもを全人としてとらえる保育の実践者の見識を重んじてきた。私がOME Pにかかわるようになってからは十二年程であるが、OME Pの指導者たちのその心意気を感じさせられ、日本の保育者もその大きな流れに加わることを望んだ。これはヨーロッパに始まった運動であるが、右に記した保育観はアジアにも共通のほうである。しかし、どの時代にも、その時代の潮流との葛藤と戦いを伴った。現代においては、女性の社会的地位の向上、母親の就労に伴う保育問題は世界に共通である。自然環境の破壊、都市化、子どもの生活の変化なども世界に共通の問題である。先進国では少子化の問題も共通である。世界の保育者たちはこれらの葛藤とどう取り組んできたか、また、いまどう取り組んでいるのか。

今回の世界大会のプログラムには、このような現代の問題が取り上げられている。

なぜ世界大会かを再び考える

子どもを愛し、子どもが人間として健やかに育つようにと真剣に願う保育者が世界中にいる。OME P世界大会はその人々が三年に一度集まる機会である。日本の保育者もその人々と手をつないで、世界の大きな流れに加わろうではないか。それは私共が世界平和に寄与する道である。

本誌の読者で、まだ登録を済ませていない方は、どうかふるって登録して参加して
頂きたい。

(愛育養護学校)

※問い合わせは、本誌49頁をごらん下さい。

